

平成30年度 第57回

農林水産祭



— 2019.3 —

公益財団法人 日本農林漁業振興会

第57回 農林水産祭式典

平成30年度（第57回）農林水産祭式典は、勤労感謝の日の平成30年11月23日（金）に明治神宮会館において、各界の代表者、中央・地方の農林水産関係者、農林水産祭参加行事において農林水産大臣賞を受賞した優秀農林水産業者等約800名の方々が参加して行われました。

式典は、吉川貴盛農林水産大臣の主催者挨拶の後、園芸部門天皇杯受賞者のJ A豊橋トマト部会の大竹浩史氏が生産者を代表して、明治神宮総代の清野智氏が消費者を代表して、それぞれ収穫感謝の言葉を述べられ、次いで選賞審査報告と表彰状等の授与、ご来賓の祝辞、祝電の披露等が行われました。

農林水産大臣挨拶

農林水産祭式典を挙げるに当たり、主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい折、大島衆議院議長、郡司参議院副議長はじめ多くの皆様方に御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

今年、大阪北部地震、七月の豪雨、台風二十一号、北海道胆振東部地震などの度重なる災害により、農林水産業にも多大な被害が発生しました。農林水産省といたしましては、被災された農林漁業者の方々が一日も早く経営再建できるよう、全力で取り組んでまいります。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、昭和三十七年から国民的な祭典として実施しており、今年で五十七回目となります。この間、農林水産祭を支えていただいている関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝申し上げます。

本日、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を受賞される皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

農林水産業は、国民への食料の安定供給に加え、地域経済、地域社会の活力の維持に大きな役割を果たしています。

人口減少に伴うマーケットの縮小や、農林漁業者の減少・高齢化の進行など、厳しい状況に直面している中で、我が国の農林水産業を将来にわたって維持・発展させるためには、その潜在力を最大限引き出し、若者が夢や希望を託すことができる魅力ある成長産業にしていくことが必要です。

天皇杯等三賞の受賞者をはじめ、全国の農林水産大臣賞の受賞者の取組は、地域の農林水産業、農山漁村の発展に大きく貢献してこられました。皆様方におかれましては、本日を契機に後進の方々の模範となってさらに御活躍いただくことを御期待申し上げます。

結びに、本日御出席の皆様方並びに全国の農林水産業に携わる方々の今後ますますの御発展と御健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。



吉川 貴盛 農林水産大臣

《収穫感謝の言葉》－生産者代表・消費者代表



生産者代表
園芸部門天皇杯受賞
大竹 浩史氏



消費者代表
明治神宮総代
清野 智氏

《選賞審査報告》 難波成任農林水産祭中央審査委員会会長

審査報告を申し上げます。

農林水産祭中央審査委員会では、昨年8月から本年7月までの1年間に全国各地で開催されました302の農林水産祭参加表彰行事において、農林水産大臣賞を受賞されました512点を対象にして、書類審査および現地調査を行いました。その結果、7部門において、それぞれ天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の三賞の受賞者を決定致しました。また、「女性の活躍」について、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞の二賞を選考致しました。

受賞者の方々の業績のうち、私からは天皇杯受賞者の方々について特筆すべき点をご報告申し上げます。

農産・蚕糸部門の北海道の佐藤忠美さんは、水稻と秋小麦を主体とした40ha規模の家族経営です。栽培期間が短い厳しい環境の中で、水稻の直播栽培を導入し、栽培データに基づく圃場ごとのきめこまかな管理など、独自の高い技術力で高収量を確保するとともに、経費の削減を図ることにより、北海道でトップクラスの高収益経営を実践しています。

園芸部門の愛知県のJ A豊橋トマト部会は、収益性が向上できる養液栽培に着目し、研究会を結成して、地元企業と連携しながら環境制御装置などの共同開発を行うとともに、開発した技術を部会内で共有するなど、部会が一体となって養液栽培の普及と技術改良に取り組んできました。こうした取組みの結果、現在、養液栽培の導入率は60%を超え、販売額は大幅に増加しており、その取組みはほかの産地の模範となっております。

畜産部門の熊本県の内ヶ島夫妻は、牛にとって栄養バランスのとれた飼料の設計や、暑さ対策、衛生的な搾乳作業の実現などにより、量を求めるのではなく、高い乳脂肪率など「質で勝負」し、高収益を実現しています。また、堆肥生産技術では、県のコンクールで「堆肥の達人」に認定されています。子ウシにミルクを与えるほ乳ロボットの導入や酪農ヘルパーの利用による、ゆとりある堅実な経営は、地域のモデルとなるものです。

林産部門の三重県の速水夫妻は、持続可能な森林経営を目標に環境配慮型林業の国際的基準を有する森林認証を日本で最初に取得し、国内におけるその後の認証の普及に貢献しました。また、高性能林業機械の導入による生産性の向上や、ポット苗生産、選抜育種の技術確立による育林コストの低減などに取り組む、その成果を多方面に普及啓発してきた日本有数の林業家です。

水産部門の静岡県のある有限会社西尾商店は、いわし削り節を初め、様々な削り節を製造・販売するとともに、消費者向けに「だし」の魅力を伝える体験プログラムを実施するなど「だし文化」を広く発信する取組みを行ってきました。また、受賞された「いわし削り節」は、独自に開発し、念入りに調整した切削工程により製造され、ふんわりとした食感と良好な風味が高く評価されました。

多角化経営部門の京都府の「こと京都株式会社」は、少量多品目栽培の家族経営から九条ネギに絞った経営に転換するとともにカット加工と販路拡大に取り組む、現在は150名を雇用する経営体へと成長しています。需要者のニーズに対応したきめ細かな加工、生産者の組織化、九条ネギのブランド化などにより、農家収入の安定化、地域の雇用創出を図り、経営の多角化のモデルケースとなっています。

最後に、むらづくり部門の岩手県の「本寺地区地域づくり推進協議会」は、かつて中尊寺の荘園であった歴史的な景観を活かすため、地元での議論を経て、曲がりくねった畦畔を残すなど景観保全を重視した農地整備を行いました。また、荘園米オーナー制度や在来カボチャを特産品化する取組み、さらには、協議会の女性が主体となって荘園交流館を拠点に、郷土料理レストランの運営を行うほか、伝統芸能の伝承や都市農村交流に取り組むなど地域の活性化を図っています。

また、「女性の活躍」につきましては、お二方がそれぞれの部門においても高く評価され、三賞を重複して受賞されました。

本日、受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、こうした方々の先進的な取組みが全国に普及し、日本の農林水産業がさらに活性化することを祈念致しまして、審査報告といたします。



中央審査委員会
会長 難波 成任氏

天皇杯等三賞の表彰

天皇杯は、7部門の受賞者に対し吉川貴盛農林水産大臣から賞状が、林良博（公財）日本農林漁業振興会会長から天皇杯が授与されました。引き続き、内閣総理大臣賞は、吉川農林水産大臣から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与され、日本農林漁業振興会会長賞は、林会長から7部門及び「女性の活躍」の受賞者にそれぞれ授与されました。



天皇杯受賞者



内閣総理大臣賞受賞者



日本農林漁業振興会会長賞受賞者



表彰の様子

ご来賓の祝辞、祝電等

天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の授与後に、内閣総理大臣安倍晋三様からのメッセージと衆議院議長大島理森様、参議院副議長郡司彰様からご祝辞を頂きました。また、ご出席の国会議員や多数の祝電のご紹介をいたしました。



大島 理森 衆議院議長



郡司 彰 参議院副議長

大臣と三賞受賞者等との懇談会

式典終了後大臣懇談会が行われ、天皇杯等三賞受賞者は、吉川農林水産大臣ほか農林水産省幹部、林日本農林漁業振興会会長、中家理事長ほか同役員、難波中央審査委員会会長ほか各分科会主査等から、温かい祝福の言葉を受け和やかに懇談されました。



中家 徹
(公財) 日本農林漁業振興会 理事長

天皇杯等三賞の選賞

平成30年度の天皇杯等三賞（天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞）の選賞審査は、8月1日に開催された農林水産祭中央審査委員会第1回総会を皮切りに、経営（兼多角化経営）、農産・畜産、園芸、畜産、林産、水産、むらづくりの各分科会において行われました。平成29年8月から平成30年7月にかけて全国で開催された農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞された優秀農林水産業者512人（団体、夫婦連名を含む）を対象に、部門毎に書類審査と現地調査による厳正な審査が行われ、10月18日の中央審査委員会第2回総会において、決定されるとともに、同日農林水産省ホームページ等で公表されました。



農林水産祭中央審査委員会第2回総会

天皇杯等三賞選賞の結果

	部門	出品財	受賞者		表彰行事
			住所	氏名等	
天皇杯	農産・畜産	経営 (水稲・秋小麦)	北海道 雨竜郡妹背牛町	佐藤 忠美	第47回日本農業賞
	園芸	経営 (トマト)	愛知県豊橋市	J A豊橋トマト部会 (代表 大竹 浩史)	第47回日本農業賞
	畜産	経営 (酪農)	熊本県山鹿市	内ヶ島 賢勇* 内ヶ島 美津代*	平成29年度熊本県農業コンクール大会
	林産	経営 (林業)	三重県 北牟婁郡紀北町	速水 亨* 速水 紫乃*	全国林業経営推奨行事
	水産	産物 (水産加工品)	静岡県静岡市	有限会社西尾商店 (代表 西尾 公伸)	第64回全国水産加工たべもの展
	多角化経営	経営 (ねぎ)	京都府京都市	こと京都株式会社 (代表 山田 敏之)	平成29年度全国優良経営体表彰
	むらづくり	むらづくり 活動	岩手県一関市	本寺地区地域づくり推進協議会 (代表 佐々木 勝志)	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業
内閣総理大臣賞	農産・畜産	経営 (茶)	鹿児島県南九州市	有限会社小磯製茶 (代表 小磯 雅一)	平成29年度全国優良経営体表彰
	園芸	経営 (多肉植物)	静岡県浜松市	株式会社カクト・ロコ (代表 野末 信子)	平成29年度農山漁村女性活躍表彰
	畜産	経営 (肉用牛一貫)	長野県東御市	峯村 誠太郎* 峯村 伊世*	平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	産物 (木炭)	岩手県久慈市	谷地 司	平成29年度岩手県木炭品評会
	水産	産物 (水産加工品)	静岡県焼津市	焼津冷蔵株式会社 (代表 原崎 太輔)	第15回静岡県水産加工品総合品評会
	多角化経営	経営 (在来作物)	奈良県奈良市	プロジェクト粟 (代表 三浦 雅之)	第47回日本農業賞
	むらづくり	むらづくり 活動	岐阜県 加茂郡白川町	特定非営利活動法人 ゆうきハートネット (代表 佐伯 薫)	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業
女性の活躍	女性の活躍 (多肉植物)	静岡県浜松市	株式会社カクト・ロコ (代表 野末 信子)	平成29年度農山漁村女性活躍表彰	
日本農林漁業振興会会長賞	農産・畜産	経営 (麦類)	愛知県岡崎市	二村 誓也	平成29年度全国麦作共励会
	園芸	経営 (おうとう、西洋なし、りんご)	山形県東根市	株式会社太陽のおくりもの 斉藤果樹園 (代表 斉藤 雄一郎)	第19回全国果樹技術・経営コンクール
	畜産	経営 (養豚)	山形県鶴岡市	株式会社五十嵐ファーム (代表 五十嵐 一春)	平成29年度全国優良畜産経営管理技術発表会
	林産	産物 (木材)	岡山県真庭市	山下木材株式会社製材工場 (代表 山下 豊)	第45回JAS製材品普及推進展示会
	水産	経営 (水産業)	熊本県天草市	益田 沙央里	平成29年度農山漁村女性活躍表彰
	多角化経営	経営 (野菜・農産加工)	沖縄県 国頭郡今帰仁村	株式会社あいあいファーム (代表 木村 修)	平成29年6次産業化優良事例表彰
	むらづくり	むらづくり 活動	鹿児島県 薩摩郡さつま町	中津川区公民館 (代表 丸口 憲一)	第40回豊かなむらづくり全国表彰事業
女性の活躍	女性の活躍 (水産業)	熊本県天草市	益田 沙央里	平成29年度農山漁村女性活躍表彰	

(注1) 氏名等欄の*は、夫婦連名での受賞である。

(注2) 「女性の活躍」については、それぞれ園芸部門における内閣総理大臣賞、水産部門における日本農林漁業振興会会長賞との重複受賞である。

優秀農林水産業者に係るシンポジウム

農林水産祭の一環として、天皇杯等三賞受賞者の業績を広く普及することを目的として、東京都内及び地方において、シンポジウムを開催しています。

都 内 開 催

【テーマ：JAなめがたの焼き芋戦略】（第18回）



金田富夫氏

平成30年12月11日（火）に東京都港区の石垣記念ホール（三会堂ビル）において、平成29年度多角化経営部門で天皇杯を受賞された「JAなめがた甘藷部会連絡会」の業績を取り上げて、シンポジウムを開催しました。農林水産省大臣官房の別所智博技術総括審議官のご挨拶のあと、前農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査の梅本雅氏による選賞審査報告、JAなめがたの金田富夫氏による業績発表があり、引き続き、梅本氏の進行により、

右記のパネリストによる意見交換や参加者との質疑応答が行われました。シンポジウムは、行政関係者、農林関係団体、関連企業など約100名の参加の下、実施されました。



パネルディスカッションの様子

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（第18回）出席者
H30.12.11（敬称略）

区 分	氏 名	所属・職名
業績発表者	金田 富夫	平成29年度農林水産祭多角化経営部門天皇杯受賞者（JAなめがた甘藷部会連絡会） JAなめがた営農経済部長
コーディネーター及び選賞審査報告	梅本 雅	（国研）農研機構・中央農業研究センター所長（前農林水産祭中央審査委員会経営分科会主査）
コメンテーター	青木 隆治	茨城県鹿行農林事務所行方地域農業普及改良センター専門員
コメンテーター	五十嵐祐吾	生活協同組合コープさっぽろ生鮮本部長
コメンテーター	松下 秀介	農林水産祭中央審査委員会 経営分科会専門委員（筑波大学教授）
挨拶	別所 智博	農林水産省大臣官房技術総括審議官
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会 常務理事

地 方 開 催

【明治150年記念（テーマ：蚕糸業の新たな展開を目指して）】（第19回）



高木 賢氏

本年度は明治150年に当たることから明治期の産業を牽引した蚕糸業に因んで、平成26年度に蚕糸・地域特産部門で天皇杯を受賞した碓氷製糸農業協同組合（現碓氷製糸株式会社）の業績を取り上げて、平成30年12月17日（月）に群馬県前橋市ホテルラシーネにおいて、記念シンポジウムを開催しました。

農林水産省農林水産技術会議事務局の島田和彦研究総務官と群馬県農政部の塚越昭一郎部長のご挨拶のあと、前農研機構顧問の町井博明氏による選賞審査報告、碓氷製糸株式会社の高木賢社長による業績発表に引き続き、上毛新聞社顧問の藤井浩氏の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、蚕糸業関係者、行政関係者、学生など、約130名の皆様にご出席いただき、また、会場では、「きもの」の展示なども行われました。



パネルディスカッションの様子

「明治150年記念シンポジウム」（第19回）出席者
H30.12.17（敬称略）

区 分	氏 名	所属・職名
業績発表者	高木 賢	平成26年度農林水産祭蚕糸・地域特産部門天皇杯受賞者 碓氷製糸農業協同組合（現碓氷製糸株式会社）社長
選賞審査報告及びコメンテーター	町井 博明	前農研機構・顧問（前農林水産祭中央審査委員会農蚕・蚕糸分科会専門委員）
コーディネーター	藤井 浩	上毛新聞社 顧問・論説委員
コメンテーター	土屋 真志	群馬県農政部蚕糸園芸課長
コメンテーター	西尾 仁志	有限会社西尾呉服店社長
コメンテーター	松村 哲也	JA前橋市養蚕連絡協議会会長
挨拶	島田 和彦	農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官
	塚越 昭一 （代議 土屋 真志）	群馬県農政部長 （群馬県農政部蚕糸園芸課長）
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会 常務理事

地方開催

【テーマ：持続可能な環境保全型の林業経営】（第20回）



速水亨氏・速水紫乃氏

平成31年2月4日（月）に三重県松阪市フレックスホテルにおいて、平成30年度林産部門で天皇杯を受賞された速水亨・紫乃ご夫妻の業績に関するシンポジウムを開催しました。

林野庁の森谷克彦研究指導

課長と三重県農林水産部の岡村昌和部長のご挨拶のあと、中央審査委員会林産分科会主査の岡田秀二氏による選賞審査報告、速水ご夫妻による業績発表に引き続き、岡田主査の進行により、コメンテーターと業績発表者による意見交換や参加者との質疑応答などが行われました。

シンポジウムには、林業関係者、行政関係者など、約130名の皆様にご出席いただきました。



パネルディスカッションの様子

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（第20回）出席者

H31.2.4（敬称略）

区分	氏名	所属・職名
業績発表者	速水 亨	平成30年度農林水産祭林産部門天皇杯受賞者
	速水 紫乃	〃
コーディネーター及び選賞審査報告	岡田 秀二	農林水産祭中央審査委員会林産分科会主査（富士大学学長）
コメンテーター	前田 芳宏	三重県農林水産部森林・林業担当次長
コメンテーター	島本美保子	農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員（法政大学社会学部教授）
コメンテーター	山田 茂樹	農林水産祭中央審査委員会林産分科会専門委員（森林総合研究所多摩森林科学園園長）
挨拶	森谷 克彦	林野庁森林整備部研究指導課長
	岡村 昌和	三重県農林水産部長
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会常務理事

地方開催

【テーマ：荘園景観の保全と農地整備を両立させたむらづくり】（第21回）



五十嵐正一氏

平成31年2月22日（金）に岩手県盛岡市のホテルニューカーリーナにおいて、平成30年度むらづくり部門で天皇杯を受賞された本寺地区地域づくり推進協議会の業績に関する地方シンポジウムを開催しました。

東北農政局の高居和弘農村振興部長、岩手県農林水産部の小岩一幸技監、一関市の勝部修市長（代読）のご挨拶のあと、中央審査委員会むらづくり分科会の福与徳文主査の選賞審査報告、本寺地区地域づくり推進協議会の五十嵐正一事務局長による業績発表が行われ、引き続き、福与主査の進行により、コメンテーター、業績発表者、同補助者による意見交換や参加者との質疑応答が行われました。

シンポジウムは、他県を含む行政関係者や学生等100名を超える皆様にご出席いただきました。



パネルディスカッションの様子

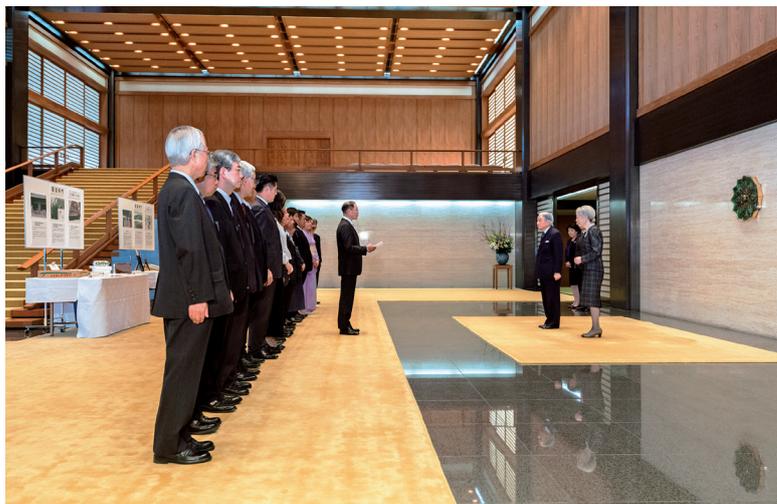
「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（第21回）出席者

H31.2.22（敬称略）

区分	氏名	所属・職名
業績発表者	五十嵐正一	平成30年度農林水産祭むらづくり部門天皇杯受賞者本寺地区地域づくり推進協議会事務局長
業績発表補助者	佐藤ひろの	本寺地区神楽代表
コーディネーター及び選賞審査報告	福与 徳文	農林水産祭中央審査委員会むらづくり分科会主査（茨城大学農学部教授）
コメンテーター	鹿糠 幸治	岩手県土地改良事業団体連合会農村振興部事業調整監
コメンテーター	佐藤 武生	一関市骨寺荘園室長
コメンテーター	広田 純一	岩手大学農学部教授
挨拶	高居 和弘	東北農政局農村振興部長
	小岩 一幸	岩手県農林水産部農政担当技監
	勝部 修 （代読 佐藤武生）	一関市長 （一関市骨寺荘園室長）
司会・進行	小栗 邦夫	（公財）日本農林漁業振興会常務理事

天皇皇后両陛下への拝謁と業績説明

平成30年度の農林水産祭参加表彰行事において、7部門それぞれで最も優秀な農林水産業者として選定され、最高の栄誉に輝いた天皇杯受賞者は、平成31年1月18日（金）皇居宮殿北溜において天皇皇后両陛下に拝謁し、受賞者の代表から天皇杯受賞に対するお礼言上を行い、天皇陛下から励ましのお言葉をいただきました。



天皇杯受賞者のお礼言上

天皇皇后両陛下への業績説明

拝謁に引き続き、難波成任中央審査委員会会長及び別所智博農林水産省大臣官房技術総括審議官のご先導により、両陛下は、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門の順に、受賞者からそれぞれの業績について説明を受けられました。

各天皇杯受賞者のご説明に対して、両陛下から、展示物に関する技術や経営、生産状況等について多岐にわたるご下問があり、短い時間の中でそれぞれ温かい励ましのお言葉をいただきました。



多角化経営部門の業績説明



むらづくり部門の業績説明

天皇杯受賞者の皇居特別参観・記念撮影

拝謁・業績説明に先立ち、宮内庁担当者の案内により、皇居特別参観が行われ、宮殿、中庭、二重橋、道灌堀、賢所、生物学研究所（水田）、紅葉山御養蚕所等を参観しました。また、特別参観後には皇居宮殿東庭松の塔前において、天皇杯受賞者を囲んで記念撮影が行われました。



天皇杯受賞者を囲んで記念写真

天皇杯と農林水産祭

1. 天皇杯は、スポーツ及び農林水産業の振興のため、特に業績のあった最優秀者に対して授与されるものであり、現在、30個の天皇杯が宮内庁を通じて所管団体に下賜されています。

2. 昭和37年11月、財団法人日本農林漁業振興会が農林省と共催する農業祭参加表彰行事において、部門別の最優秀者（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産）として選ばれた者に対して授与するものとして、6個の天皇杯が宮内庁を通じて、財団法人日本農林漁業振興会に下賜されました。

その後、昭和54年度から、農林水産祭参加表彰行事に新たに加えられたむらづくり部門の特に優秀なものに授与されるものとして、天皇杯が1個下賜されました。

なお、部門名については、現在、農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくりの7部門となっています。



3. 天皇杯は毎年農林水産関係団体等が「農林水産祭参加行事」として開催する約300の行事において農林水産大臣賞（約500点）を受賞した者の中から中央審査委員会の厳正な審査を経て選定されます。

平成30年度(第57回)農林水産祭「実りのフェスティバル」

平成30年度「実りのフェスティバル」は、平成30年11月2日(金)、3日(土)の2日間、前年度に引き続き、東京都豊島区の池袋サンシャインシティにおいて開催いたしました。

初日の開場に先立ち、秋篠宮同妃両殿下がご来場され、高鳥修一農林水産副大臣をはじめとする関係者や各地のゆるキャラ、キャンペーンガール等がお出迎えしました。

平成30年度の7部門の天皇杯受賞者の業績を紹介するコーナーでは、写真パネルをご覧いただきながら、農林水産省の別所智博技術総括審議官から両殿下へ天皇杯受賞者の業績のご説明が行われ、引き続き、高鳥農林水産副大臣、別所審議官、中家徹日本農林漁業振興会理事長ほかのご案内により、政府(農林水産省)特別展示コーナー、地域農林水産展(都道府県)コーナー、農林関係団体コーナーをご視察いただきました。

初日、2日目とも穏やかな天候に恵まれたことや2日目には隣接会場におけるイベントからの人の流れがあったことから客足は順調で、2日間で約52,000人の皆様にご来場いただきました。



天皇杯コーナーご視察



お出迎え

政府(農林水産省)特別展示コーナー



お米で日本を元気に!



未来に繋がる持続可能な農業推進



動物検疫所



明治150年記念展示



和の空間でおもてなし

内閣総理大臣賞・日本農林漁業振興会会長賞の紹介

平成30年度農林水産祭
内閣総理大臣賞及び日本
農林漁業振興会会長賞の
受賞者をパネルで展示紹
介しました。



内閣総理大臣賞パネル



日本農林漁業振興会会長賞パネル

東日本大震災被災地復興支援コーナー

東日本大震災からの被災地の一日も早い復
旧・復興を願い、会場内に被災地の農林水産物
の展示、販売等を行うため、「東日本大震災被
災地復興支援コーナー」を設置し、展示をしま
した。



(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会

都道府県技術・経営普及展コーナー

都道府県の独自性を有
する農業技術や特徴ある
農林水産物について、18
道府県の出展により実
物、パネル等で展示紹介
されました。



地域農林水産展（都道府県）コーナー

地域農林水産展（都道府県）コーナーでは、全
国各地の農林水産物の試食、試飲、販売が行われ、
大勢の来場者で賑わいました。出展された33都道
府県のうち、秋篠宮同妃両殿下には、岩手県、秋
田県、福島県、千葉県、石川県、和歌山県、大分
県、群馬県、静岡県、三重県、鹿児島県の順に11
県の担当部長等から出展产品のご説明を行いました。



ご視察：千葉県

地域農林水産展（都道府県）コーナー

■ご視察該当の出展



岩手県



秋田県



福島県



群馬県



静岡県



石川県



三重県



和歌山県



大分県

■ご視察該当以外の出展



北海道



青森県



鹿児島県



山形県



茨城県



栃木県



埼玉県



東京都



山梨県



長野県



富山県



福井県



岐阜県



愛知県



京都府



山口県



徳島県



香川県



福岡県



佐賀県



長崎県



熊本県

会場風景



宮崎県



農 林 水 産 業 啓 発 展

農林水産関係団体

秋篠宮同妃両殿下は、農林水産関係団体コーナー13団体のうち、「公益財団法人日本特産農産物協会」並びに「全国農業協同組合中央会（JAひろば）」をご視察されました。

また、来場者が参加できる体験コーナーやクイズ、試食・試飲が楽しめるコーナーなど各種の展示が行われ、賑わいました。



全国農業協同組合中央会

ご視察



(公財) 日本特産農産物協会

農林水産関係団体



全国い生産団体連合会



全国食内生活衛生同業者組合連合会



全国納豆協同組合連合会



(一財) 大日本蚕糸会



(公財) 中央果実協会



(一社) 日本鯉節協会



(一社) 日本畜産副産物協会



(一社) 日本バインアップル缶詰協会



(一社) 日本ハンバーグ・ハンバーガー協会



(独) 農畜産業振興機構

体験、ふれあい

体験乗馬



うさぎとのふれあい



畑屋うさぎ

ゆるキャラとのふれあい&撮影会



農林水産物の贈呈

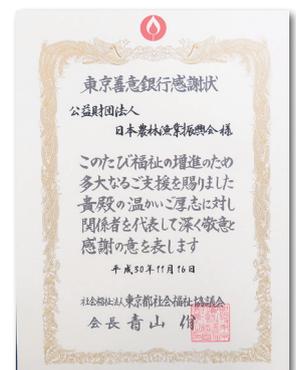
◆贈呈ご協力道県・団体◆

農林水産祭を祝い、実りの喜びを分かち合うとの趣旨で、8道県・2団体から提供された物品はフェスティバル終了後、東京善意銀行を通じて、福祉施設に贈呈されました。

これに対し、社会福祉法人東京都社会福祉協議会から平成30年11月16日（金）に（公財）日本農林漁業振興会に対して感謝状が贈られました。これは、ひとえに農林水産物をご提供いただいた皆様のご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。



北海道（JAグループ北海道（北海道中央会・北海道信連・ホクレン・北海道厚生連・共済連北海道）、秋田県（全農秋田県本部）、山形県、群馬県（坂井養蜂場、中村養蜂園、針塚農産、全農群馬県本部、JA高崎ハム）、長野県（JA長野県農産物PR協議会）、静岡県（南駿茶業青年団、静岡県温室農業協同組合、静岡県椎茸産業振興協議会）、愛知県、大分県（全農大分県本部、大分県米消費拡大推進協議会、大分県椎茸振興協議会、豊後別府湾ちりめん協議会）、JA全中、全国花き振興協議会（日本生花商協会、日本花き卸売市場協会、全国花卸協会、日本花き生産協会、日本インドアグリーン協会、JFTD）（順不同）



農林水産祭事業の概要

目的は

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と（公財）日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施しています。

事業は

優秀農林水産業者に対して下賜された天皇杯等の授与と収穫を感謝する「農林水産祭式典」（毎年11月23日に開催）と優秀農林水産業者の技術・経営の紹介、農林水産物の展示・即売等を中心とする「実りのフェスティバル」の2本柱で行われています。

実施体制は

農林水産祭を推進するための農林水産祭実行委員会、農林水産大臣賞の受賞者の中から特に優秀なものを天皇杯等三賞受賞者として選定する農林水産祭中央審査委員会等、多くの関係者の協力の下で実施しています。

財源は

国の補助金のほか、都道府県の負担金、農林水産関係団体の寄付金、経団連関係団体・企業の寄付金等、多くの皆様のご協力をいただいています。

close-up

農林水産祭（通巻 第131号）

本誌に掲載の記事、写真の無断転載を禁じます。
平成31年度の農林水産祭スケジュールにつきましては、
本会ホームページ等でお知らせする予定です。

発行所 公益財団法人 日本農林漁業振興会

平成31年3月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル7F
TEL 03 (6441) 0791 (代) FAX 03 (6441) 0792
URL <http://www.affskk.jp>